

# 半原藩陣屋・藩邸跡

1871年（明治4年），<sup>あんべのぶおき</sup> 廃藩置県となり，藩主安部信発は再び東京に戻り，ついで士族も各自の目的によって東京その他へ移住する者，また半原に永住する者もありました。半原藩が成立し藩邸がおかれたのは，わずか3年3ヶ月の短い期間でした。

その後，半原藩邸跡には鈴木伝氏の長男，鈴木栄氏の尽力で石碑が建てられ，半原の治績を後世に伝えています。

- <広さ>
  - 東西 45間                      役所 3間×6間
  - 南北 59間
- <役人>
  - 代官 2人                      全員で20人ぐらい
  - 手代 2・3人
  - 役人 3・4人                  日勤は10人足らず（代官・手代等）
  - 足軽
  - 仲間（ちゅうげん）

<暮らし> 廃藩置県後，禄を失った半原藩士の生活の窮乏はあわれなほどだったという。

